

本賞にジョゼット・シーラン氏 米国 人道的食糧支援事業に多大な貢献

世界15カ国から多数の推薦

増大する飢餓人口や食に帰因する健康不安など、世界の食の状況は深刻です。

食の分野に特化した国際顕彰制度は、1986年に創設された世界食糧賞（米国）があります。食料生産や食品産業が盛んな新潟も、食をテーマに世界貢献しようと、食の新潟国際賞を設け、その実現に取り組んでいます。

世界15カ国から食分野で活躍する個人・団体の推薦を受け、「本賞」「佐野藤三郎特別賞」「21世紀希望賞」の3部門で受賞者を選定しました。

6月25日 理事会 受賞者を決定

選考委員会は唐木英明・倉敷芸術科学大学学長を委員長に各界の有識者11名で編成されました。「世界にとって普遍的な価値を持つこと」「人々の暮らしを救う業績であること」などを原則に選考を進め、4月23日に東京で開かれた選考会議で最終候補を決め、理事会に答申しました。6月25日、新潟市で開催された理事会で、第一回受賞者3名を決定しました。

本賞＝ジョゼット・シーラン氏 前 国連世界食糧計画(WFP) 事務局長 (米国)



ジョゼット・シーラン氏は国連世界食糧計画(WFP)のエグゼクティブ・ディレクターとして在任中、卓越したリーダーシップを発揮し、精力的に歴史的な食糧危機対応し、世界の飢餓撲滅のために行動した。

特にシーラン氏在職中のWFPへの寄付は50億ドルに増加し、私的寄付も7百万ドルから1億5千万ドルに増加し、75ヶ国・10億5百万人に対し食糧援助を行うとともに、人道的食糧支援の必要性を世界に認知させた功績は大きい。

氏の精力的な活動は多岐にわたり、国連高等経営委員会委員長、国連開発グループメンバー、世界食糧危機に対する国連高等タスクフォース所属、などの要職につき国際的事業に貢献する活動をしている。2012年4月、世界経済フォーラム副会長に就任した。1954年6月12日米国生まれ。

佐野藤三郎特別賞＝梅林正直氏 三重大学 名誉教授（日 本）



梅林氏は、ケシ栽培で名高いタイ北部山岳地帯「黄金の三角地帯」において、個人で果樹植樹ボランティア活動を行い、献身的に農業国際協力に取り組み、この地域住民の自立するための支援を

行い、ケシ栽培からの脱却の推進と持続的な農業による地域モデルの構築を行った。また世界的には麻薬の生産を減らしたとして注目される。

また、この活動は、梅林氏の「自分の頭と身体とお金を使って汗を流すのが、本当のボランティアの原点」という信念に基づき、氏の私費で独自に行われている。1933年8月11日東京生まれ。

21世紀希望賞＝ンネカ・C・イケグウォヌ氏 スモールホルダーズ財団 事務局長(ナイジェリア)



ンネメカ・C・イケグウォヌ氏は小規模農民のための地域FM放送局を開局し、ラジオを通じてナイジェリアの25万人の農民向けに環境保護や持続可能な農業、マーケット情報などを提供すると

ともに「スモールホルダーズ財団」を設立し小規模農民の製品の生産性と生活向上と貧困者の減少にも寄与した。

ラジオ局は毎日すべての主要な市場の商品価格情報を提供し、また基礎的なビジネス手法(コスト分析・銀行口座の開き方・帳簿のつけ方など)も教える。1982年5月29日ナイジェリア生まれ。

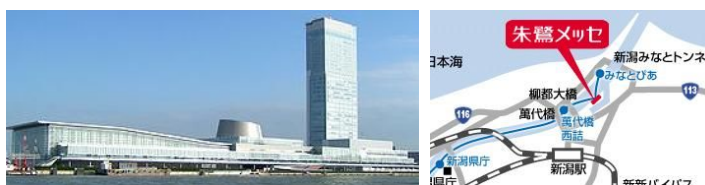
食の新潟国際賞 選考委員会

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属
選考委員長	唐木 英明	倉敷芸術科学大学学長
選考委員	木村 修一	加齢・栄養研究所所長
"	生源寺 眞一	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
"	猪口 孝	新潟県立大学学長
"	平山 征夫	新潟国際情報大学学長
"	山口 寛治	奥野総合法律事務所特別顧問
"	柴田 明夫	㈱資源・食料問題研究所代表
"	山野井 昭雄	味の素(株)顧問
"	小出 五郎	日本科学技術ジャーナリスト会議前会長
"	今野 正義	日本食糧新聞社 代表取締役社長
"	日向 志郎	日本農業新聞 代表取締役社長

表彰式スケジュール

- 日程 平成24年 10月15・16日
- 会場 ホテル日航新潟 朱鷺メッセ国際会議場
新潟市中央区万代島5-1
- 基本プログラム
 - (1)表彰式 (10月15日)
 - (2)祝賀パーティー(10月15日)
 - (3)受賞記念講演(10月16日午前)



公益財団法人
食の新潟国際賞財団事務局
〒951-8131 新潟市白山浦1丁目425番地9
新潟市役所白山浦庁舎内
Tel 025-201-8901 fax025-201-8902
<http://www.niigata-award.jp>

食の新潟国際賞財団

新潟は、食料生産や食品産業の盛んな地域です。また、水と土との壮絶な戦いによって全国一の美田を形成した多くの先人の志を、私たちは地域の精神風土として誇りにしています。

「食の新潟」の歴史を踏まえ、先人の献身と情熱を次世代に継承するために、私たちは世界に貢献する事業を立ち上げることを決めました。

それは、世界の食の量的質的課題に先進的に挑戦してめざましい成果を挙げている人（業績）を顕彰する国際賞の創設です。このために新潟県の産業界、農業界、学术界、行政の有志は、2009年3月、財団を設立しました。

理事

(敬称略)

	氏名	所属・役職
理事長	古泉 肇	亀田商工会議所会頭
副理事長	篠田 昭	新潟市長
副理事長	下條 文武	新潟大学学長
副理事長	池田 弘	新潟経済同友会筆頭代表幹事
常務理事	与田 一憲	(公財)食の新潟国際賞財団 ディレクター
理事	五十嵐修平	亀田郷土地改良区理事長
理事	伊藤 忠雄	新潟大学名誉教授
理事	今井 長司	新潟県農業協同組合中央会副会長
理事	大坪 研一	新潟大学教授
理事	石黒 正路	新潟薬科大学教授
理事	齋藤 吉平	新潟県酒造組合会長
理事	佐藤 功	佐藤食品工業(株)代表取締役会長
理事	高橋 道映	新潟日報社代表取締役社長
理事	田中 通泰	亀田製菓(株)代表取締役社長
理事	高橋 秀松	新潟商工会議所副会頭
理事	吉田 康	(株)ブルボン代表取締役社長

顕彰(賞)の事業理念

「食の新潟」を世界の食の情報発信の拠点とし、その役割において、食の質と量を高め、社会での実践を通して食文化を創造的に発展させ、人類の福祉と健康、平和に多大な貢献をもたらした業績を顕彰し、永続可能な社会の確立に寄与することを目的とする。

財団の組織理念

新潟県は日本有数の食の生産地であり、また新潟市は極めて高い水準の食料自給率を誇る田園政令市である。

「食の新潟」は、佐野藤三郎氏に代表される多くの先達の志と実践によって形成された。本財団は、先人の志を継承し、「食の新潟」の自負をさらに深め、食の新潟国際賞の成果を高めるため、全県の産学官民有志が結集し、その篤志によって設立し、運営するものである。

評議員

氏名	所属・役職
安斎 隆	セブン銀行代表取締役会長
唐木 英明	倉敷芸術科学大学学長
北原 保雄	筑波大学名誉教授
小泉 武夫	東京農業大学名誉教授
坂本 元子	和洋女子大学評議員
高木 正道	新潟薬科大学学長
辻井 博	京都大学名誉教授
並木 富士雄	第四銀行取締役頭取
服部 幸應	(学)服部学園理事長
平山 征夫	新潟国際情報大学学長
山口 寛治	奥野綜合法律事務所特別顧問
山本 正治	新潟医療福祉大学学長

監事

氏名	所属・役職
五十嵐 祐司	東邦産業(株)代表取締役社長
進藤 博	第四銀行営業統括部部长
野崎 正博	一正蒲鉾(株)代表取締役社長

相談役

氏名	所属・役職
武田 修三郎	日本産学フォーラムファウンディングディレクター
栗山 清	(株)栗山米菓 相談役

In Memory of Sano Touzaburo

Niigata International Food Award